

エコアクション21

環境活動レポート

(対象期間: 2016年4月~2017年3月)



システム可視光レーザーマーカ― LMシリーズ

エフエムレザテック株式会社

発行日 2017年4月20日

改訂日 2017年8月17日

1. 事業活動の概要

- (1) 名称および代表者名
エフエムレーザテック株式会社
代表取締役社長 風早 富雄
- (2) 所在地
広島県広島市中区上八丁堀 8 番 10 号 クロスタワー2F
- (3) 資本金
1,000 万円
- (4) 設立年月日
平成15年 6月
- (5) 事業内容
半導体レーザ応用製品の開発・製造・販売
- (6) 品質環境管理責任者及び担当者連絡先
品質環境管理責任者 代表取締役社長 風早 富雄
担当者(事務局) 主任 戸田 温雄
連絡先 TEL 082-228-0277
FAX 082-228-0276
E-mail kazahaya@fm-lasertec.co.jp
URL <http://www.fm-lasertec.co.jp/>
- (7) 事業の規模
従業員数 7 名
床面積 86 m²

2. 取組の対象範囲

- (1) 組織 エフエムレーザテック株式会社
- (2) 活動 半導体レーザ応用製品の開発・製造・販売

3. 環境方針

エフエムレーザテック株式会社は、半導体レーザ応用機器の開発・製造・販売を行うことで、顧客のニーズと期待に応え、社会貢献を目指す会社である。当社の事業活動を通じて環境保全活動に取り組み、地球環境に貢献していくことを目指す。

1. エコアクション21に基づく環境経営システムを導入することによって、当社の環境への関わりを意識し、可能な限り定量的な目標を設定して、継続的な環境保全活動に取り組む。
2. 以下の項目を重点活動項目とする。
 - ① 電気の使用量削減。(CO2排出量削減)
 - ② 水道の使用量削減。
 - ③ 廃棄物の分別と削減。
 - ④ 資材・事務用品のグリーン調達の推進。
 - ⑤ 環境に配慮した製品設計・販売促進。
 - ⑥ PRTR法対象化学物質の適正管理。
3. 環境関連の法規、条例および当社が同意したその他の要求事項を遵守する。
4. 本方針を全従業員に周知し、更に適切な教育訓練を通じて、環境保全活動に対する意識向上を図る。

制定日 2010年12月 1日

改定日 2014年 7月25日

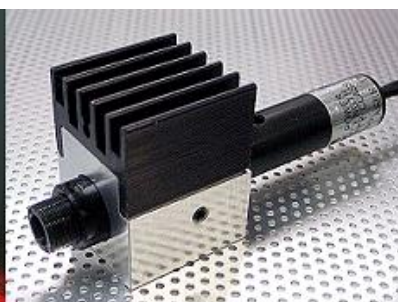
エフエムレーザテック株式会社

代表取締役社長

風早 富雄



システム可視光レーザーカー



グリーン・レーザーカー



レーザーポインター

4. 環境目標

環境目標	単位	実績(年度)	2016年度	2017年度	2018年度
		基準値	目標値	目標値	目標値
電力の二酸化炭素排出量(売上高当たり)	kg-CO2 /百万円	72.56 (2012年度)	71.11	70.75	70.39
水道使用量 *1	—	—	—	—	—
一般廃棄物排出量(売上高当たり)	kg /百万円	3.22 (2012年度)	3.15	3.14	3.12
産業廃棄物排出量(売上高当たり)	kg /百万円	0.198 (2012年度)	0.166	0.165	0.164
製品使用部材の環境対応調査	%	91.8 (2012年度)	92.0	92.0	92.0
RoHS 指令適合部品の使用比率	%	86.9 (2012年度)	87.0	87.0	87.0
事務用品のグリーン購入(購入金額比率)	%	21.3 (2012年度)	61.0	62.0	63.0
RoHS 指令適合レーザー機器の製造比率	%	91.0 (2012年度)	92.0	92.0	92.0
化学物質適正管理 *2	—	—	—	—	—

(注1) 環境負荷の集計 2016年度は 2016年4月～2017年3月である。他の年度も同様の期間で集計する。

(注2) 中国電力の排出係数は 0.657kg-CO2 (2011年度) を使用する。

(注3) *1: 入居ビルにおいて、当社のみ水道使用量が計量できないため空欄としている。

(注4) *2: PRTR法対象化学物質の適正管理を行うが、数値目標は設定しない。

5. 主要な環境活動計画の内容 (2016年度～2017年度の主要な取り組み内容)

- (1) 電力の二酸化炭素排出量削減(売上高あたり)
- ・不要照明の消灯
 - ・不使用器具の電源を切る
 - ・エアコン温度設定・使用時間管理
 - ・サーキュレータの活用

- (2) 水道使用量削減(売上高あたり)
 - ・節水ステッカーの掲示

- (3) 一般廃棄物排出量の削減(売上高あたり)
 - ・包装資材再利用
 - ・文書の電子化
 - ・両面コピー・裏紙の使用
 - ・通い箱の使用

- (4) 産業廃棄物排出量の削減(売上高あたり)
 - ・保管表示掲示板の設置
 - ・ゴミ分別
 - ・充填式ガスライターの使用
 - ・使用済ライターの分解

- (5) 製品使用部材の環境対応調査
 - ・新規採用部品のメーカー調査(SDS, RoHS 指令対応状況等)

- (6) 製品使用部材の新環境対応調査
 - ・製造使用部品が改正 RoHS 指令に適合しているか調査(SDS, RoHS 指令対応状況等)

- (7) RoHS 指令適合部品の使用比率向上
 - ・SDS, RoHS 指令対応状況調査
 - ・非適合部品を代替部品へ切替え

- (8) 事務用品のグリーン購入(購入金額比率)
 - ・グリーン商品の調査・検討(品質・価格)
 - ・環境配慮型商品の製造業者調査
 - ・グリーン商品の優先購入

- (9) RoHS 指令に適合したレーザ機器の製造比率向上
 - ・使用部品の RoHS 指令適合推進
 - ・RoHS 指令適合の可否を製造記録で管理

- (10) 化学物質適正管理
 - ・化学物質使用量の把握

- ・製造部材の SDS による管理
- ・新規採用品の SDS 確認
- ・PRTR 法対象部品の表示管理

6. 環境活動の取組結果と評価

(1) 数値目標の取組結果

環境目標	単位	実績(年度)	2016 年度	2016 年度実績	判定
		基準値	目標値		
電力の二酸化炭素 排出量(売上高当 たり)	kg-CO2 /百万円	72.56 (2012 年度)	71.11	57.31 *3	○
水道使用量 *1	—	—	—	—	○
一般廃棄物排出量 (売上高当たり)	kg/百万円	3.22 (2012 年度)	3.15	2.37	○
産業廃棄物排出量 (売上高当たり)	kg/百万円	0.198 (2012 年度)	0.166	0.095	○
製品使用部材の環 境対応調査	%	91.8 (2012 年度)	92.0	93.0	○
RoHS 指令適合部品 の使用比率	%	86.9 (2012 年度)	87.0	89.2	○
事務用品のグリーン 購入(購入金額比 率)	%	21.3 (2012 年度)	61.0	89.5	○
RoHS 指令適合レー ザ機器の製造比率	%	91.0 (2012 年度)	92.0	99.5	○
化学物質適正管理 *2	—	—	—	—	○

判定基準: ○目標値達成 ×目標値未達成

(注 1) 環境負荷の集計 2016 年度は 2016 年 4 月～2017 年 3 月である。他の年度も同様の期間で集計する。

(注 2) 中国電力の排出係数は 0.657 kg-CO2 (2011 年度) を使用する。

(注 3) *1: 入居ビルにおいて、当社のみ水道使用量が計量できないため空欄としている。

(注 4) *2: PRTR法対象化学物質の適正管理を行うが、数値目標は設定しない。

(参考) *3: 二酸化炭素 総排出量 3723 kg-CO2

(2) 取組の評価

① 電力の二酸化炭素排出量削減(売上高あたり)

製造台数が前年より増えたためか電力使用量が少し増えた。同じく売上高も少し増えたため目標は達成。来年度は電力使用量がこれ以上増えないよう節電を心掛けたい。

② 水道使用量削減(売上高あたり)

水道は共用スペースに有るため計量しないが、蛇口近くに節水ステッカーを掲示し日頃の節水を心がけている。

③ 一般廃棄物排出量の削減(売上高あたり)

廃棄物発生量が前年より大幅に減り目標達成出来た。その一因として、毎日入れるお茶を茶葉を使用したものから粉状の物に変えたため廃棄物が出なくなったことが大きいと考えられる。ゴミ分別もきちんと出来ており来年度も引き続き廃棄物削減を心掛けたい。

④ 産業廃棄物排出量の削減(売上高あたり)

前年度に処分した不良部品のようなまとまった量の産業廃棄物が無かったため目標達成。乾電池・ライターの廃棄物が減ったが来年度は新たに使用期限切れ乾電池の廃棄物が増える見込み。



廃プラスチック

金属くず

電線

廃乾電池

ライター(分解)

⑤ 製品使用部材の環境対応調査

新規採用部品に RoHS 指令適合品を採用した結果目標達成。今後も RoHS 指令適合品の採用を検討したい。

⑥ RoHS 指令適合部品の使用比率向上

新規採用部品に RoHS 指令適合品を採用した結果目標達成。今後も RoHS 指令適合品の採用を検討したい。

⑦ 事務用品のグリーン購入

グリーン購入を意識して事務用品を購入した結果、目標を大幅に上回る結果となり目標達成することが出来た。

⑧ RoHS 指令に適合したレーザ機器の製造比率向上
今年度は RoHS 指令に適合していない製品の製造が少なかったため数値が上がり目標達成出来た。

⑨ 化学物質適正管理
化学物質適正管理を実施。PRTR 法対象化学物質は表示管理を行っている。3 月末に化学物質使用量を調査し化学物質使用履歴台帳に記録した。今年度の鉛フリーはんだの購入は無し。

(3) 教育訓練の実施

① 教育

- ・2015 年度エコアクション 21 活動結果報告と 2016 年度取り組みについて (2016 年 4 月)
- ・2016 年度上半期エコアクション21活動結果報告 (2016 年 10 月)

② 訓練

- ・入居ビル全体の火災を想定した緊急事態対応訓練 (2017 年 3 月)



7. 環境関連法規の違反、訴訟の有無

(1) 適用となる環境関連法規制

- ・廃棄物処理法
- ・グリーン購入法
- ・PRTR法
- ・フロン排出抑制法

(2) 結果

環境関連法規制等の遵守評価の結果、環境関連法規への違反、訴訟等の事項はありません。また関係当局からの違反等の指摘は過去 3 年間ありません。

(3) その他

REACH 規則、RoHS 指令等の海外の環境関連法・規則に関して、動向及び最新情報の把握に努めた。

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

エコアクション21に基づく環境経営システムを導入して丸6年の運用を終えた。数値目標を設定した全ての項目において目標達成しており、環境保全活動としての効果が表れている。今後も全従業員の意識向上を図り、継続的な環境保全活動に取り組んでいきたい。

(1) 電力の二酸化炭素排出量削減

主力製品の生産数量が増えたこともあり、前年よりも電力使用量が若干増大したものの、余裕を持って目標をクリアできた。このまま節電対策を継続し、効率的な生産体制を維持していく。

(2) 一般および産業廃棄物排出量

一般廃棄物および産業廃棄物ともに、前年度より10%以上も低減することができており、廃棄物の少ない効率的な生産体制が維持されている。

一般廃棄物の半数以上を占める段ボール(社外からの荷物に由来)や雑誌(主に製品カタログ類)を極力削減できるような工夫をしていきたい。産業廃棄物の年間発生量はたかだか10kg未満であるため、計量頻度の見直しを行う。

(3) 資材グリーン調達に関し、製品使用部材の環境対応調査およびRoHS指令適合部品の使用比率向上

新規部品を採用する際はRoHS指令対応調査を必須とし、RoHS指令適合部品の優先的な採用を心掛け、今後も継続維持していく。

尚、2019年7月から適用される改正RoHS指令(4種の制限物質が追加)への対応に付き、具体的な調査・取り組みを開始したい。

(4) 事務用品のグリーン購入

今後もグリーン商品の優先的な選定・購入を心掛け、継続維持していきたい。

(5) 環境配慮製品の販売促進(RoHS指令に適合したレーザ機器の製造比率向上)

RoHS指令に適合していない部品を使用する製品の生産数量が減少したため、余裕を持って目標値をクリアすることができた。特に主力製品においては、RoHS指令適合比率100%を目指して生産に取り組むたい。

以上